

## 第三節 回々教

勃興の由  
來

新疆の回部に行はるゝ回々教(イスラム教)は、耶蘇紀元を距る六世紀の末、亞刺比亞國に勃興せり。其の起るや、實に迅雷激雨の勢を以て、驀然四方に傳播し、其の北より東に向ふもの、一瀉千里、澎湃として、新疆及支那本部に進入したり。

『イスラム』教が始めて新疆に入るや、當時天山南路は國號を回鶻と稱せり。故に支那人は此教を呼びて回教又は回々教と曰ふ。

宗教も亦時代應求の産物たるを免れず。而して其の世界に興起するや、必ず偉人の熱狂的努力に依らずんばあらず。佛教の釋迦牟尼に於ける基督教の基督に於ける、固より然り。其他苟も一宗一派の開創者皆然らざるは莫し。マホメットに於て勃興したる回々教、殊に然るもの有るを認む。

史を緝けば、第五、六世紀の亞刺比亞國は、實に蒙昧野蠻にして、殆んど私闘の修羅場たりしを知らん。即ち亞刺比亞人はマホメット出現以前に於ては、未だ國民たる組織を有せず。唯、區區の遊牧民にして、國內二三の都市下に生活する者ありと

マホメット出現前  
に於ける  
亞刺比亞